

日本医史学雑誌第四十七巻 総目次

原 著

吉益家門人録の考察……………町 泉寿郎……………三
W・ハーヴィイのアナトミアと方法……………月澤美代子……………三
清医胡兆新の来日記録と業績——長崎における……………三
一八〇三〜一八〇五年の活動(一)……………郭 秀梅……………六三
Medicine and New Knowledge in Medieval
Japan: Kajiwara Shōzen (1266-1337) and
the “Man'ampo” (1)
……………Andrew Edmund GOBLE……………三六
徐霊胎と吉益東洞——その學術思想における異同点……………三六
およびその原因の研究……………黄 煌……………三九
清医胡兆新の来日記録と業績(二)——長崎における……………三九
一八〇三〜一八〇五年の活動……………郭 秀梅……………六二
モーゼス・マイモニデスの医学的著作概観……………六二
……………泉 彪之助……………六三
『解体新書』のオランダ人翻訳者ディクテンに
ついでの研究……………石田 純郎……………三〇九
Medicine and New Knowledge in Medieval
Japan: Kajiwara Shōzen (1266-1337) and
the “Man'ampo” (2)
……………Andrew Edmund GOBLE……………三五一

公衆衛生の確立における日本と英国——長与専齋と

E・チャドウィックの果たした役割

……………上林 茂暢……………六五

山形県における近代産婆制度成立過程に関する研究

——明治三十二年までの産婆規則類の制定を中心に

……………高橋みや子……………六九七

大正四(一九一五)年制定の「看護婦規則」の

制定過程と意義に関する研究……………平尾真智子……………七五七

新発見の医書、田代三喜『本方加減秘集』に

見られる医説——基本処方と加減方

……………遠藤次郎・中村輝子……………七九七

研究ノート

明治初期の陸軍軍医学校……………黒澤 嘉幸……………一〇五

明治以降昭和二十年までに熊本で発行された

医学医事雑誌……………岡村 良一……………一二九

『医心方』房内篇についての考察……………巖 善昭……………一三七

G H Q看護課の占領直後から約六ヶ月間の活動

……………城丸 瑞恵……………一三五

明治初期の陸軍軍医学校の卒業生……………黒澤 嘉幸……………一三七

永富独嘯庵から小石元俊へ——江戸時代中期の

医の先哲……………長与 健夫……………一八三

資 料

吉益家門人録(一)……………町 泉寿郎……………一六三

癸亥 春林軒統薬方册(一)

……………町 泉寿郎……………一六三

記事

.....高橋 均、坂田 育弘、児玉 重隆..... 三六二
 吉益家門人録 (二) 町 泉寿郎..... 三九三
 吉益家門人録 (三) 町 泉寿郎..... 三八七
 癸亥 春林軒続葉方冊 (二) 高橋 均、坂田 育弘、児玉 重隆..... 三八六

消息

日蘭交流四百年物故者法要 多留 淳文..... 一七九
 日本医史学会関西支部平成十二年秋季大会 長門谷洋治..... 一八〇

例会抄録

橋本伯寿『断毒論』の刊行年について 深瀬 泰且..... 一八一
 火薬の発明と中国伝統医薬学 小曾戸 洋..... 一八二
 Grace Elizabeth Altによる第二次世界大戦後の看護改革 大石 杉乃..... 一八三

吉益東洞と道家・道教思想 館野正美・大山昌道..... 一八四
 医方卷石秘録に見られる洋式外用薬について 中西 淳朗..... 一八三

吉益脩夫——断種法をめぐる人びと (その四) 岡田 靖雄..... 一八三

小川鼎三先生生誕一〇〇周年記念特別例会 四三
 Grace Elizabeth Altによる第二次世界大戦後の看護改革 大石 杉乃..... 一八四

吉益東洞と道家・道教思想 館野正美・大山昌道..... 一八五

お雇い外国人医学教師ヴェルニツヒの生涯と業績

..... 蒲原 宏..... 一八五
 私の垣間見た近世漢方史の一面 菊谷 豊彦..... 一八九
 吉益東洞「古書医言」における儒教経典 館野正美・大山昌道..... 一八〇

紹介

片桐一男『江戸の蘭方医学事始』 高橋 文..... 一八四
 横田敏勝『名画の医学』 友吉 唯夫..... 一八六
 M・B・A・オールドストーン『ウィルスの脅威』 加藤 四郎..... 一八八

中村桂子『北里柴三郎』 会田 恵..... 一八九
 石渡隆司『医学哲学はなぜ必要なのか』 月澤美代子..... 一九三
 小松良夫『結核——日本近代史の裏側』 兼松 一郎..... 一九四

岡田靖雄『歴史から見た日本の精神科医療の問題点』 小池 清廉..... 一九五

米本昌平他『優生学と人間社会』 瀧澤 利行..... 一九六
 吉良枝郎『日本の西洋医学の生い立ち』 大島 智郎..... 一九三

瀧澤利行『健康文化論』 日野 秀逸..... 一九四
 芝木秀哉『順天堂経験』 藤田 俊夫..... 一九五

浅野弘毅『精神医療論争史』 岡田 靖雄..... 一九六
 岡田靖雄『精神病医 斎藤茂吉の生涯』 小峯 和茂..... 一九八

山崎光夫『日本の名薬』 青木 允夫..... 一九九
 D・フロリー、V・ラッド 根本 幸夫..... 二〇〇

『アーユルヴェーダのハーブ医学』 根本 幸夫..... 二〇〇

森川政一『昭和前期上越医界史』……………蒲原 宏……………七二
医史学文献目録 平成十一(一九九九)年
……………順天堂大学医史学研究室編……………六〇六

第一〇二回日本医史学会総会 演題目次

会長講演

ライデン大学医学部の学統……………吉田 忠……………四七〇

特別講演

東北大学医学部前史……………山本 敏行……………四六〇

一般口演

1 占領期にて山梨県の看護政策に影響を
与えたフアーラー軍医……………佐藤公美子……………四六三

2 十五年戦争と日本外科学会総会…助 昭三……………四六四

3 海軍航空医学……………黒澤 嘉幸……………四六六

4 看護婦規則下における准看護婦の実態
——免状授与・資格要件・看護料金に関して——
……………平尾真智子……………四六八

5 大正三年の東京における発疹チフスの
大流行について……………渡部 幹夫……………四七〇

6 本邦における神経心理学用語(「失語」など)
の起源……………濱中 淑彦……………四七三

7 二十世紀前半における京都・岩倉の
「国際化」について(その一)……………橋本 明……………四七四

8 戦前期日本における精神病院収容患者の
増加……………鈴木 晃仁……………四七六

9 弘前藩『御国日記』にみる癲狂について
……………岡田 靖雄……………四七八

10 O・テムキンの『てんかんの歴史』にみる
時代区分について……………小曾戸明子……………四八〇

11 晩年の長谷川泰について……………唐沢 信安……………四八三

12 司馬凌海——その名古屋時代(明治九〜十二年)
……………高橋 昭……………四八四

13 本邦篤志解剖第一号の執刀者と三田村日誌
……………宮下 舜一……………四八六

14 明治一七年から二一年までの医籍登録者に
ついて……………樋口 輝雄……………四八八

15 日本における老年医学の源流……………寺畑 喜朔……………四九〇

16 医の心の歴史的考察……………杉田 暉道……………四九三

17 セメント質微細構造の概念の変遷について
……………西巻 明彦……………四九四

18 狩野文庫(東北大学)と蓬左文庫(名古屋市)
の古い馬骨図について……………松尾 信一……………四九六

19 幕末維新期の蘭方医関島良致の生き方
……………青木 歳幸……………四九八

20 西洋医学所医師添田玄春の長崎留学
……………深瀬 泰且……………五〇〇

21 尾張藩「御医師」の基礎的研究——

22	「乳巖姓名録」に現れた乳癌手術患者の予後 …………… 岩下 哲典……………	五〇三
23	華岡青洲自筆「丸散便覧序」…………… 松木 明知……………	五〇四
24	『重訂解体新書』所引の『物理小識』について …………… 高橋 均……………	五〇六
25	『蔵志』の解剖学的表現について—— 『阿蘭陀経絡筋脈臟腑図解』との比較 …………… 陶 惠寧……………	五〇八
26	日本におけるテリアカの受容 …………… 計良 吉則……………	五〇〇
27	大伴家持が献上した薬方…………… 中村 輝子・遠藤 次郎……………	五〇二
28	和気広虫について…………… 後藤 志朗……………	五〇四
29	近世初期の病理学・治療法—— 『古写本 鍼灸秘書』による考察 …………… 半井 英江……………	五〇六
30	故松原三郎博士遺品中の一文書—— イドイツシユ語で書かれた医史学史料 …………… 戸田 静男・亀 節子……………	五〇八
31	ロイヤル・マーズデン病院の設立と発展 …………… 泉 彪之助・正橋 剛二……………	五〇〇
32	ジョウジ・ワシントンの死について …………… 柳澤 波香……………	五〇三
33	古代インドの病理論書『マダーヴァ・ニダーナ』 …………… 藤倉 一郎……………	五〇四
34	『脈経』二十四脈状の構造分析—— 遅数と疎疾の相違点…………… 山下 勤……………	五〇六
35	三陰交の明堂関係医書の主治病證と経脈病證 …………… 中川 俊之……………	五〇八
36	『扁鵲心書』の鍼灸について…………… 木場由衣登……………	五〇〇
37	針灸歌賦の研究——「玉龍歌」…………… 北江 龍也……………	五〇三
38	中国伝統医学と道教(第二十二回)「祝由」 …………… 宮川 浩也……………	五〇四
39	日本の鍼灸を輸入した中国民国時代 鍼灸医学家——承淡安の業績について …………… 吉元 昭治……………	五〇六
40	中国医書にみられる糖尿病…………… 宮川 隆弘……………	五〇八
41	『傷寒雜病論』における卓越した考注 …………… 魯 紅梅……………	五〇〇
42	台湾故宮所蔵の日本関連古医籍…………… 郭 秀梅・加藤 久幸……………	五〇二
43	『蔵府和名放』について…………… 竹内 尚……………	五〇四
44	梅園資料館所蔵の医学書の紹介…………… 佐藤 裕……………	五〇六
45	三輪東朔に関する新知見…………… 友部 和弘……………	五〇〇
46	知られざる医史学者・渡辺奎輔…………… 町 泉寿郎……………	五〇三
47	足部に名前を残す二人のフランス人 ——Chopart と Lisfranc…………… 小林 晶……………	五〇五
48	Colles 骨折の嚆矢——フランス人医師 Claude POUTEAU…………… 清水 陽人……………	五〇七

49	ガスパール・ポーアン “Theatrum anatomicum” について(2)——“Anatomica corporis virilis et membrae historia” (1597) との比較検討 月澤美代子..... 五八	60	越中高岡見在江戸後期蘭語医事資料について 正橋 剛二..... 五〇
50	レアルド・コロンボ 『解剖学』における ヒトと動物..... 澤井 直..... 五〇	61	シーボルトと眼科医伊東昇迪..... 酒井 シヅ..... 五三
51	藤浪鑑教授とがんの疫学調査..... 青木 國雄..... 五三	62	大英図書館で新たに発見されたケンペルによる 灸所鑑の翻訳草稿について ヴォルフガング・ミヒエル..... 五四
52	網膜色素変性症患者の心理的側面に関する 研究史..... 高林 雅子..... 五四	63	公家・寺院日記から見た眼科の動向 奥沢 康正..... 五六
53	日露戦争時の傷病俘虜者の治療と 看護状況..... 坪井 良子..... 五六	64	宗田文庫本『切紙東井御積談』について 小曽戸 洋..... 五八
54	『明治四十三年五月 種痘名簿 吉備郡X村役場』 について..... 石田 純郎..... 五八	65	導道が曲直瀬道三に授けた印可状 遠藤 次郎・中村 輝子..... 五〇
55	早矢仕有的とメディカルNPO・両幸社 中西 淳朗..... 五七〇	66	『煙蘿子針灸法』について..... 上田 善信..... 五三
56	ハーバード大学図書館に残るヘボンの書簡 高安 伸子..... 五三	67	「灸鍼図」の考察..... 篠原 孝市..... 五四
57	明治期ドイツ留學生の絵葉書..... 小田 皓二..... 五四	68	『頓医抄』における脈法..... 吉岡 広記..... 五九六
58	スクリバ博士の外科系譜の疑義の訂正 蒲原 宏..... 五七六	69	金瘡医と『金瘡療治鈔』 アンドリュウ・ゴープル..... 五八
59	泉屋家文書の外科資料蘭文断簡、外科問考に ついて..... 相川忠臣・ハルメン ボイケルス・中西 啓..... 五八	70	三位法眼考..... 石原 力..... 六〇〇
		誌上发表	
		71	高野長英から大窪綱介宛の書翰 杉立 義一..... 六三
		72	中日疫病史における伝染説提唱の先覚者—— 吳有性と橋本伯寿..... 邵 沛..... 六四